

**令和7年度第2回小牧市児童館運営委員会  
議事要旨**

<b>日 時</b>	令和8年2月12日(木) 14:00～15:30
<b>場 所</b>	ラピオ5階 まなび創造館 研修室
<b>出席者</b>	<p><b>【委員】7名(※敬称略)</b>  (委員長)植松 浩二郎 (副委員長)丹羽 和子  中島 智子 小島 恵子 長谷川 留美子 鈴木 久代 尾崎 唯</p> <p><b>【事務局】15名</b>  こども未来部長 こども未来部次長  多世代交流プラザ所長兼こまきこども未来館長 指導保育士  こまきこども未来館副館長 子育て世代包括支援センター副所長  事業推進係員2名  小牧南児童館長 小牧児童館長 西部児童館長 味岡児童館長  篠岡児童館長 大城児童館長 北里児童館長</p>
<b>会議内容</b>	<p>1 こども未来部長あいさつ</p> <p>2 報告  (1) 第1回委員会における要望について  (2) 令和7年度 児童館の現況報告について  (3) 令和7年度 児童館・子育て支援室利用状況について  (4) 児童館利用者アンケートについて</p> <p>3 議題  (1) 令和8年度 児童館活動方針・活動目標(案)について  (2) 令和8年度 児童館サークル活動・行事計画(案)について  (3) 令和8年度 児童館の子育て支援(案)について</p> <p>4 その他</p>
<b>議事要旨</b>	<p>・開会および会議の成立について</p> <p>会の定足数について、小牧市児童館の管理に関する規則第15条第2項において過半数の出席が必要とされているところ、本日は委員7名の出席があり、会議は成立となる。(傍聴者0名。)</p>
<b>事務局</b>	<p>1 こども未来部長あいさつ</p> <p>前回、9月の第1回児童館運営委員会では、未来館における講座開催委託の令和9年度以降の在り方について多くの意見をいただいた。</p>
<b>こども未来部長</b>	

	<p>山下市長が衆議院選挙への出馬を表明され、出馬に伴い市長職を退職された。</p> <p>今月 22 日に新たな市長が決定する予定であり、新市長の就任に伴い、今後の方針が若干変更となる可能性があるが、事務局としては委員からいただいた意見をできる限り尊重し、より適切な運営方法となるよう、今後の在り方を検討していく。また、必要に応じて委員の皆さまにご意見を伺う場合がある。</p> <p>最後に、本日の委員会では来年度の活動方針などについて各委員の立場からご意見を伺い、児童館運営をさらに充実させていきたい、皆様には忌憚のないご意見をお願いしたい。</p> <p><u>2 報告</u></p> <p><u>(1) 第 1 回委員会における要望について</u></p> <p>前回の第 1 回児童館運営委員会においては、未来館がこれまで築いてきた活動が途切れることのないよう、契約方法や事業者選定の仕組みについて、指定管理者制度への移行や任意指定を含め、どのような運営方法が適当であるかを検討してほしい旨の意見が委員から出された。</p> <p>これを受けて、市では、未来館が開館から 5 年を迎え、効率的な配置方法等が概ね確立できたことから、現在の委託期間が終了する令和 8 年度末をもって全館を指定管理制度へ移行し、より効率的な運営を図ることを検討している状況である。</p> <p>指定管理制度に移行した場合、原則として公募となるが、「地域に密着した団体、あるいは地域に根差した活動を行う団体が管理を担うことで、地域の復興・活性化が期待できる場合」や「市長が特に必要と認める場合」には任意指定が認められていることから、任意指定が可能かどうかについても併せて検討を進めている。</p> <p>これらの点については、昨年 12 月の小牧市議会第 4 回定例会における小川真由美議員の一般質問「大人気のこまきこども未来館について」において、今後の運営方針を問われた際、こども未来部長から市の考え方として答弁している。</p>
委員 長	<p>&lt; 質疑応答 &gt;</p> <p>事務局からの報告について、質疑・意見等ないか。</p> <p>→なし</p>
委員 長	<p>我々（児童館運営委員会）からの要望について、しっかりと実現に向けて取り組んでいただいているものと思う。引き続き、どうぞよろしくお願ひしたい。</p>

委員 長	<p><u>(2) 令和7年度児童館の現状報告について</u></p> <p><u>(3) 令和7年度児童館・子育て支援室利用状況について</u></p> <p>内容に関連があるため一括して報告をお願いする。</p>
未 来 館 副 館 長	<p>(資料 1-1)</p> <p>こまきこども未来館は、「また来たくなる未来館～未来リテラシーを育む～」をコンセプトとし、今年度は特にこどもの気持ちに寄り添い、未来館がこどもにとっての居場所となることを目標として取り組んできた。市内外から多様な来館者が訪れる中で、誰にとっても「楽しい」「また来たい」「ほっとする」と感じられる場となるよう努めてきた。</p> <p>児童館ガイドライン第4章に基づき、現状の取組状況について報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びによるこどもの育成 興味や挑戦心を引き出す遊びの提供に取り組み、市内全児童館と連携した「擬態プラネタリウム」の投影や、親子でも楽しめる「あし DE まきまき競争」など来館者が参加しやすい遊びの場を整備。</li> <li>・こどもの居場所の提供 授業時間帯に来館する児童（不登校児等）に対し、学校と連携しながら相談対応を行うとともに、ギター演奏ができる環境を整えるなど、個々の状況に応じた支援を実施。</li> <li>・こどもの権利・意見の尊重 高校生から寄せられた「館内での充電利用」に関する要望に対し、こども自身が利用ルールを作る仕組みを設け、自主性を尊重しながら運営を行った。</li> <li>・配慮を必要とするこどもへの対応について 支援が必要な親子を対象に「親子利用 DAY」を2回実施し、安心して遊べる環境を提供した。</li> <li>・子育て支援 「おねんねアート写真」用の装飾マットを常設し、親子の記念づくりを支援した。</li> <li>・地域の健全育成 小牧小学校の夢チャレンジ科を受け入れ、児童の体験活動の機会拡大に協力した。</li> <li>・ボランティアの育成・活動支援 大人の利用者によるビリヤード指導を通じて地域の大人と交流する場を設けたほか、マイクラ部ではマイクラフト内に未来館の空間を作成し、来館者との交流を図る活動を行った。</li> </ul>
小 牧 南 児 童 館 長	<p>(資料 1-2)</p> <p>小牧南児童館は、今年度「すべてはこども達のために」を合言葉とし、重点</p>

<p>小 牧 児童館長</p>	<p>目標を「つながりの輪～信頼関係の構築～」と定め、来館者・職員・地域の三つのつながりを大切にしながら運営を進めてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者とのつながり 来館者の声に丁寧に耳を傾け、イベント企画や運営に反映することで、安心して過ごせる居場所づくりに努めてきた。</li> <li>・職員同士のつながり 月2回の職員会議を通して情報共有や意見交換を行い、連携の強化と風通しのよい職場環境づくりに取り組んできた。こうした取り組みの積み重ねが、来館者対応の質の向上につながった。</li> <li>・地域とのつながり ふらっとみなみ運営協議会やコミュニティセンターとの共催事業、「とよめサロン」におけるこども食堂支援など、“食”を通じた地域交流を進めた。また、中学生ボランティアの受け入れや幼保・小学校の行事への参加を通じ、地域教育機関との連携も強化した。</li> <li>・利用状況と課題 幼児・親子向けの取組は充実している一方、高校生の利用は減少しており、今後の課題として受け止めている。小中学生の利用は増加傾向にあるため、来年度は「放課後 Chillout」を活用し、こどもの声を取り入れた活動内容の検討を進める予定。また、こどもプランナーの役割についても見直し、こどもと共につくる児童館運営を推進していく。</li> <li>・今後の方針 こどもも大人も気軽に立ち寄り、安心して話ができる児童館であり続けるため、地域・保護者・職員が「こども達のために」という思いを共有し、地域に根ざした児童館づくりを進めていきたい。</li> </ul> <p>(資料 1-3)</p> <p>小牧児童館は、今年度の重点目標を「こどもが主役になれる児童館」「遊びを通して地域とつながる」とし、居場所づくり、子育て支援、地域連携を中心に取り組んできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所づくり 職員がこどもの権利について理解を深める機会を設け、共通認識のもとで児童が安心して過ごせる環境づくりを進めた。また、キッチンカーによるこども食堂は、食の支援を必要とする小中学生にとって重要な拠点となった。さらに、長期休暇中の小学生タイムは「こども DO まんなかプロジェクト」に採択され、こども自身がオンラインで企画を進めることで、主体的な活動や達成感の実感につながったと考える。</li> <li>・子育て支援 保護者に寄り添う姿勢を重視し、年齢別の広場を開催した。参加者同士が</li> </ul>
---------------------	--

<p style="text-align: center;">西 部 児童館長</p>	<p>ながることで、公園への外出やお茶会などが生まれ、親子が孤立せず、成長をともに喜び合える場となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携 放課後こども教室へのアウトリーチ、学区のおまつりや地域協議会への参加などにより、地域との接点を広げた。これらの活動を通じて、主任児童委員による乳幼児親子向けカフェの開催など、新たな協力関係も生まれた。</li> <li>・防災の取り組み 「つながる防災」事業の深めるコースに採択され、炊き出しや段ボールキャンプを実施した。地域や小学生の防災への関心の高さがうかがえ、来年度も地域とともに防災を考える活動を継続していく予定である。</li> <li>・今後の方針 地域とともにこどもが安心して過ごせる児童館づくりを進めていく。</li> </ul> <p>(資料 1-4)</p> <p>西部児童館は、今年度の目標を「来たくなる児童館」とし、利用者が少ないという課題に向き合いながら、まず“足を運んでもらうこと”を重視し、遊びの原点を見直しながら運営してきた。親子と一緒に楽しめる環境づくりに力を入れ、各種イベントを実施したことで、児童館の魅力を再確認する一年となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携 「来たくなる児童館」の実現に向け、館外での PR 活動に力を入れた。地域の児童クラブや祭り、学校行事に積極的に参加し、市のスポレクではこどものボランティア参加を実施した。障がいのある方との交流は、児童館の周知だけでなく、インクルーシブ社会を考える機会にもなった。父母クラブの活動では、未来館や公民館など他施設との連携も広がった。</li> <li>・子育て支援 利用者ニーズに応じて、ちびっこ広場の内容を館だよりや SNS で発信し、広報の強化を図った。地域企業やボランティアの協力により、食育講座やコンサートなど親子向け講座を実施し、多くの参加があった。一方で、イベント以外の利用が減るといった課題も見られたため、大人向け掲示を設置し、「こどもの成長を見守る視点」を伝える工夫を始めた。</li> <li>・遊びの見直し こどもの意見を反映する児童館をめざし、意見を表明する機会を設け、運営に取り入れた。こども主催のお化け屋敷やドッジボール大会、学習室運用の見直しを実施した。ナイト児童館では防災動画と消火器体験の後に花火大会を実施するなど、利用者の希望を反映した企画が実現した。また、観望会、家電の分解ワークショップ、着付け教室、親子でのアイス・バターづくりなど、大人もこどもも楽しめる企画を多数展開した。</li> </ul>
---	--

<p>味岡 児童館長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の方針 大人が楽しむ姿はこどもに良い影響を与えるという考え方を基盤に、児童と大人の楽しさのバランスを大切にしながら事業を進めてきた。今後も、こどもと大人がまた「来たくなる」児童館をめざし、地域とともに歩いていく。</li> </ul> <p>(資料 1-5)</p> <p>味岡児童館は、令和 7 年度も目標を「みんなでつくる！ ぱるもあじおか〜児童館を楽しもう！〜」とし、こどもの声に耳を傾けながら、児童館サポーターの協力を得て運営してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域連携と新たな関係づくり 久保区こども会との新体制での連携、味岡小学校の放課後こども教室での遊びの提供、外国にルーツをもつこどもへの支援として日本語塾や市の日本語初期教室への PR など、新たな繋がりづくりを進めた。</li> <li>・ 子育て支援室 1 歳児の利用が増えており、子育て中の母親自身を支える取組として「バランスボール・エクササイズ」を定期開催した。また、パパと乳児の利用増加を受け、「パパベビ」を月 1 回開催し、パパ同士の交流や母親のリフレッシュにもつなげている。赤ちゃん連れの利用が広がり、子育て支援員を中心に、遊び場であると同時に悩みを話せる拠りどころとなる関係づくりを進めている。</li> <li>・ 中高生支援、こどもの権利 大型児童センターとして、中高生の活動拡充に取り組んだ。こども達の要望を受け、「アオハルナイト」を毎日開催し、不登校のこどもや悩みを抱える子が安心して過ごせる居場所となっている。また、木・金曜日の「アオハルcafé」では、調理活動や地域との交流を行い、多世代のつながりを生む場となった。スマホゲームを希望する声も多く、単なる遊びではなく交流のきっかけとしての意義もあるため、SNS やマナーを含めた話し合いの場を 2 月末に設ける予定。</li> <li>・ こどもの参画 館内に「こども企画書」コーナーを設け、こどもの意見を形にする機会を設けた。企画を進行するうえでの課題もあったが、今年度はジュニアスタッフによる「リアルスプラトゥーン」の開催が実現した。</li> <li>・ 今後の方針 今後も「みんなでつくる」児童館として、こどもの意見表明を尊重しながら運営を進めていく。</li> </ul>
<p>篠岡 児童館長</p>	<p>(資料 1-6)</p> <p>篠岡児童館は、今年度の重点目標を「児童館で遊ぼう・楽しもう」「地域と</p>

<p>大 城 児童館長</p>	<p>共に育ち合う児童館」とし、地域と利用者の声を大切にしながら運営してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域連携の強化について おやじの会やサポーターとの連携に加え、今年度はバルーンアート、読み聞かせ、畑づくりなど新たな地域協力が加わり、多くのこどもや保護者と関わる機会が増え、地域全体で子育てを支える仕組みづくりに貢献できた。</li> <li>・ こどもの声を生かした取組 こどもたちの声から始まったクリスマス会を今年度も実施し、準備・司会・運営までこどもが主体となり進めた。話し合いが難航する場面もあったが、こども自身が試行錯誤しながら取り組み、大きな達成感を得ていた。</li> <li>・ 中高生の居場所づくり 「しのおかラウンジ」と題し、週1回19時まで利用できる時間を試験的に3か月間設けたのち、こども達からの継続希望の声を受け、現在も継続。卓球やカードゲーム、読書、職員との交流など、それぞれが思い思いに過ごす場となった。認知度が十分でないため現時点では、さほど利用は多くないが、今後も中高生にとって居心地のよい環境づくりを進めていく。</li> <li>・ 保護者・地域とのつながり 保護者との対話をもとに開催したシャボン玉パフォーマンスや大道仮説実験は好評であり、今年度初めて実施した「こどもマルシェ」では、こどもが商品の準備から販売までを担い、仲間意識や達成感を得る機会となった。参加したこどもたちにも大きな刺激となり、学びの多い取り組みであった。</li> <li>・ まとめと今後の方針 こどもや保護者の声を丁寧に受けとめ、運営に反映することが、より良い児童館づくりにつながることを実感した一年であった。今後も利用者・地域と共に、誰もが居心地よく過ごせる児童館を目指し取り組んでいく。</li> </ul>
	<p>(資料1-7)</p> <p>大城児童館は、今年度の目標を「楽しさのシェアリング」とし、こども・保護者・地域の方が“楽しさの渦”に巻き込まれるような児童館づくりを進めてきた。日々の関わりを大切にしながら、安心して過ごせる居心地の良い場となることを目指して運営した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て支援 子育て世代包括支援センターより講師を招き、園の違いや入園手続きについての講話を実施し、保護者の不安解消につなげた。また、一時預かり事業は今年度も継続して実施し、多様な理由での利用がある。年度末には新入園児の“慣らし保育”として利用されるケースが増え、安全に預けられる環境づくりの重要性を再認識した。</li> <li>・ こども主体の取組 「こどもマルシェ」では、こどもが準備・運営を主体となってい、大人は</li> </ul>

北 里  
児童館長

サポートを最小限にとどめた。声かけや店舗運営など、こどもの主体性と協働の力が大きく育つ機会となった。

・地域とのつながり

9月のお月見コンサートでは、地域の桃陵中学校吹奏楽部を初めて招き、迫力ある演奏を届けてもらった。保護者や地域の方にも好評であり、児童館と地域をつなぐ場として有意義であった。

・まとめと今後の方針

時代や地域のニーズを丁寧に受けとめながら、こどもも大人も「また来たい」と思える児童館づくりを心掛け、今後も地域とのつながりを大切にし、安心できる環境づくりに努める。

(資料 1-8)

北里児童館は、昨年度に引き続き「心のビタミンC～たのしい・嬉しい・私らしい～」を目標に掲げ、こどもが自分らしく過ごせる場づくりを進めてきた。こどもの声を丁寧に受けとめ、活動に反映することを大切にして運営してきた。

・こども主体の活動

こどもの声から開催が決まったドッジボール大会では、ルールづくりから方向性までこどもと共に決め、7チームが参加し白熱した大会となった。今後は大会運営をこども主体に移行し、ドッジボール以外の企画発展も期待している。また、こどもプランナーの活動も活発であり、メンバー数は近年で最も多く、多様なアイデアが生まれている。

・乳幼児親子への支援

長年続く「ちびっこひろば」や「親子クラブ」でも新たな取り組みを模索し、大きな紙を使った絵の具あそびや、市民センターと連携したシャボン玉あそびなど新しい活動に挑戦した。これにより、今後の活動の幅が広がり、職員の意識改革にもつながった。

・子育て支援室

従来のパパ向けふれあいあそびに加え、身体を動かす広場を新設し、家ではできない遊びを求めて来館する親子が増えた。

・地域との関わり

放課後こども教室や地域協議会への参加を継続し、地域とのつながりを深めた。職業人体験では、中学生が幼児親子と関わり、遊び支援や安全な環境づくりを学ぶ機会となった。利用経験のある中学生から「20年後にはここの館長になります」との言葉があり、児童厚生員を目指す思いに職員も励まされた。

・意見収集と今後の方向性

付箋による意見収集は引き続き好評で、気軽に意見を出せる場となってい

<p>子 包 括 副 所 長</p>	<p>る。今後は、意見を出すだけでなく、こども自身が企画・実施まで主体的に取り組める体制づくりを目指していく。 こどもたちの居場所であるこの児童館が、こども自身の手でより楽しい場となるよう、今後も丁寧に取り組みを進めていく。</p>
	<p>(資料 2-1) 児童館の利用状況について 表上段は今年度 4 月から 12 月までの 9 カ月間の利用者数、中段は昨年度の同期間、下段は昨年度の実績数。 「個人任意利用者数」は自由来館による人数を示し、「集団指導利用者数」はクラブ・講座・工作など、職員が関わって指導した人数を示す。 具体的な利用状況については、先ほどの各館からの報告のとおり。</p> <p>(資料 2-2) 子育て支援室の利用状況について 上・中・下段の表構成については、先の資料 2-1 と同様。 子育て支援室は「地域子育て支援拠点」として、①子育てに関する相談支援、②子育てに関する情報提供、③子育て親子の交流の場の提供と促進、④子育てに関する講習の実施を行っている。 親子にとって居心地のよい場となるよう、こどもの発達に応じた玩具・遊び・空間を提供し、「何でも聞くよ」という温かい雰囲気迎え入れながら、親子に寄り添う支援を行っている。 相談件数については、昨年度同時期と比較して大幅に増加している。相談内容は、成長発達、家庭環境、離乳食など多岐にわたる。保護者が身近な場所で気軽に悩みを話すことができ、その内容を必要に応じて関係機関につないでいくことで、こどもの健全な育ちを支える体制につながる。 今後も関係機関と連携しながら、子育て支援を推進していく。</p>
<p>尾崎委員</p>	<p>&lt;質疑応答&gt; こまきこども未来館の現状報告の中で不登校児童の受け入れについて話があったが、実際に日中に児童が来たりすることがあるのだろうか。</p>
<p>未 来 館 副 館 長</p>	<p>日中、学校のやっている時間帯に来館するこどももいる。市内の子であれば学校へ連絡し、児童や児童の家庭から欠席の連絡が入っているかを確認するなどの連携を取っている。</p>
<p>尾崎委員</p>	<p>学校への欠席連絡がされていれば、問題ないという認識か。</p>
<p>未 来 館 副 館 長</p>	<p>こどもによって様々なケースがあるため、詳細は控えさせていただくが、通院のために学校を休む連絡をした児童が、受診が早く終わっても学校には行か</p>

尾崎委員	<p>ず、そのまま来館するようなケースなど、多岐にわたる。</p> <p>複数館から夕方に「中高生の居場所づくり」に取り組んでいると報告があったかと思う。不登校児からすると、夕方以降は同級生がたくさんいるため、児童館へは逆に行きにくいという印象を持たないだろうか。日中の受け入れなどはされているのか。</p>
所 長	<p>前提として、児童館は自由来館の施設であるため、来館さえしていただければ不登校かどうかに関係なく等しく見守りを行う。</p> <p>登校日に来館することがあれば、学校へ連絡し、来館していることを伝えるなどして連携している。当然、来館しても登校扱いとはならないが、その児童に対して児童館が「居場所」となるように運営をしている。</p> <p>過去にあったケースでは、学校には行けないが、継続的に児童館に来館していた子が、まずは「学校に給食を食べにいく」ところから始まり、最終的には学校へ復帰できた子もいた。</p> <p>校長会議の場でも「家にいるぐらいなら児童館へ」といったような話もしている。</p>
鈴木委員	<p>児童館に限らず、図書館など市の公共施設などもこどもの居場所として提供していただき、ありがたく思う。</p>
委員 長	<p>これまでも児童館の独自の取り組みとして不登校児に手を差し伸べるようなものや学校との連携を実施してきたかと思うが、「小牧市こども計画」においても「児童館における不登校対策」としての取り組みが記載されている。</p> <p>こどもの事情は多岐にわたるため、一概に「こうすればよい」といった対応ではなく、一人ひとりの状況や背景に応じて柔軟に対応しているかと思う。</p> <p>また、不登校児数も12年連続増加し、過去最多を更新し続けているが、去年から今年にかけては伸び率が2.2%となっており、経年変化からみた希望的観測ではあるが、このまま不登校児の数も減少につながってくれればと願う。</p> <p>また、文部科学省が進める「COCOLOプラン」においても、必ずしも学級復帰だけを目指さない方向性にもふれられており、学校教育のみならず、社会教育の一つとして、児童館などの福祉施設と連携しながら子ども達の社会性を育むといった取り組みも行っている。</p> <p>冒頭にも話したが、こどもの事情は多岐にわたるため、今後も個々に取り組んでいくこととなるかと思う。</p>
中島委員	<p>味岡児童館では「アオハルナイト」を毎日開催しているがどのような子が来館するのか、また、どのような過ごし方をしているのか。</p>

<p>味岡 児童館長</p>	<p>主な利用者は中学生であり、同じ中学校の友達同士での利用が多く、グループで来館することが多い。中には、日中は学校には行けないが、夕方ごろに同級生たちと共に来館することもいる。</p> <p>中学生は卓球やバドミントンなどの体を動かす遊びのほか、ボードゲームなども遊ぶ姿が多く、高校生は学習目的での来館者もいるため、勉強の合間時間に卓球で遊ぶといったような姿が見られる。</p> <p>子ども達だけの空間に職員がつき、見守りを続けていると個別に悩みを相談しにくるといったようなこともある。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>中学生の来館者数をみると、昨年度の同時期と比較すると非常に伸びている。小牧児童館、北里児童館については倍以上増えているが、どのような取り組みを行っているか。</p>
<p>北里 児童館長</p>	<p>特段変わったことはしておらず、他の利用者と同様に接している。</p> <p>中学生になるとグループを組んだりするが、職員があえてグループの会話に混ざり、会話を通じて仲良くなった結果、次の来館に繋がっているのだと思われる。また、北里児童館でも中高生の居場所づくりとして、「プレシャスタイム」を週2回開催しており、その成果も出ているのだと思われる。</p>
<p>小牧 児童館長</p>	<p>現在も小学5・6年生の利用が非常に多く「途切れない関わり」を意識し、中学校に上がったあとも引き続き来館してもらえるような関わりを心掛けている。</p> <p>中高生タイムを毎日開催していることや、月に1回中学生たちが「自分たちのやりたいこと」を児童館で実現させる企画を行っている。</p> <p>また、昼間に不登校の子が来館することもある。「児童との繋がり」に関して、職員と児童との関係性がしっかりと構築されているため、相談しにくい内容を職員へ相談してくれる子もおり、必要に応じて市へ報告することもある。</p> <p>そういった「途切れない関わり」を重要視している。</p>
<p>副委員長</p>	<p>どの児童館もそれぞれ特色が出ているかと思う。</p> <p>味岡児童館からの報告の中で「パパベビ」の話があった。父親が子どもと講座に参加している間、母親はどのように過ごしているか。</p>
<p>味岡 児童館長</p>	<p>家でゆっくり過ごす母親もいれば、心配で児童館には来るが、少し離れたところから見守る母親もいる。</p> <p>「子どもから離れて過ごす時間」に繋がっている。</p>
<p>副委員長</p>	<p>今後、ますます男性の育児参加が当たり前の時代となり、このような取り組</p>

委員 長	<p>みは非常にいい取り組みであると思う。</p> <p>その他質疑・意見等ないか。 →なし</p>
委員 長	<p>どの児童館も、「こどもの意見を取り入れる」と「地域連携」の2本を柱に工夫を凝らした取り組みをされている。</p> <p>こども達をいわゆる「お客さん」としてだけ扱うのではなく、企画・運営に参画する側としての対応をぜひ継続していただきたい。</p>
担 当	<p><u>(4) 児童館利用者アンケートについて</u></p> <p>指定管理者制度を導入している児童館においては、全館共通様式のアンケートを年1回実施し、利用者満足度の比較を行うことで、児童館運営の統一的な質の向上に努めている。</p> <p>アンケートは児童館を利用する児童および保護者を対象とし、「小学生」「中学生以上」「保護者」の区分に分けて実施した。</p> <p>実施期間は令和7年12月1日から22日までであり、小学生493人、中学生以上318人、保護者360人から回答を得た。</p> <p>・小学生アンケートについて（資料3-1）</p> <p>94%以上の児童が「児童館は楽しい」と回答し、91%以上が「好きな遊びがある」と回答しており、児童館が小学生にとって「楽しい居場所」となっていることがうかがえる。</p> <p>また、「友だちとケンカしたときや困っているときに先生が声をかけてくれるか」という項目では、昨年度より約6%向上しており、職員の寄り添う姿勢が数値にも反映されている。</p> <p>一方で、ボランティアの認知度は依然として低く、引き続き広報を強化していく必要がある。</p> <p>・中学生以上アンケート（資料3-2）</p> <p>全体としては前年度とほぼ同程度の数値であるが、「児童館に行くことは楽しいか」という項目は約5%向上した。</p> <p>また、「施設は利用しやすいか」では9割以上が「はい」と回答している。自由意見では、友だちと遊ぶ、卓球、自主勉強、暇つぶしなど、気軽に立ち寄れる「身近な居場所」として認識されていることが読み取れる。</p> <p>スマホ利用やWi-Fi整備を求める意見も多く寄せられたが、来年度より各館において順次Wi-Fi整備を行う予定である。また、館内でのスマホ利用については、こども未来館での試験運用の結果も踏まえ、こども自身の意見を取り</p>

	<p>入れながらルールを検討していく。</p> <p>・保護者アンケート（資料 3-3）  こどもに関する満足度は極めて高く、「児童館に喜んで行っているか」97.5%、「楽しそうに遊んでいるか」99.4%と、ほぼ満点に近い評価であり、職員の対応や、環境・雰囲気、衛生面なども高く評価されている。</p> <p>自由意見においても肯定的な意見が多数を占め、児童館が「安心して頼れる子育て支援拠点」であることが示されているが、一方で、「常連との関わりでアウェイ感を覚えた」「館によっておもちゃや行事に差がある」「体の大きい児童の言動が気になる」といった声も寄せられた。</p> <p>今後も利用者からの意見を真摯に受けとめ、より良い児童館運営につなげていく。</p>
委員 長	<p>&lt;質疑応答&gt;  本アンケートについては、自由回答によるものか。</p>
担 当	<p>職員から利用者へアンケートの回答について声かけなどをしてもらってはいるが、自由回答のものである。</p>
中島委員	<p>保護者向けのアンケート 5 ページの自由記述にあるように「育児中のオアシスのような場所です。子だけでなくママ同士も友達ができ幸せです。」といった声があり、心温まる内容であった。児童館が親同士やこども同士の繋がりができる場所であり、理にかなった場所であると再認識した。</p>
委員 長	<p>事務局説明にもあったとおり、中学生以上のアンケートにおいて「利用しやすいか」の項目で93%が「はい」と回答しており、「中高生が利用しやすい施設づくり」が着実に進んでいる点について、特に感心したところである。また、保護者アンケートでは、職員の対応や児童館の雰囲気に対して高い評価が寄せられている。仮に来年度の結果が多少低下したとしても、現時点の数字は非常に高い評価であると受け止めており、引き続き、利用者に寄り添った運営に努めていただきたい。</p> <p>他にご意見等なければ、以上を次第「2 報告」とし、次第「3 議題」へ進めてよろしいか。</p> <p>→異議なし</p> <p>3 報告</p>
担 当	<p>(1) 令和 8 年度児童館活動方針・活動目標（案）について（資料 4）  市の児童館全体の活動方針および活動目標としては、児童館をこどもの安心</p>

	<p>できるあそび場・地域の育ちの拠点として位置づけ、こどもの健全育成と子育て支援の両面を強化していくことを基本とし、資料に記載の 6 つの柱を基準に運営していく。</p> <p>各児童館の重点目標について、いずれの児童館においても「こどもが安心して過ごせる居場所づくり」、「地域との繋がり」を共通のキーワードとし、各館の地域特性に応じた目標を示している。</p> <p>全体の方向性として、こどもの育ちを真ん中におきながら、地域・家庭・児童館が一体となって支え合う仕組みづくりを進めていく。</p> <p>&lt;質疑等&gt; →なし</p>
<p>委員 長</p>	<p>なければ、私からひとつ感想を。</p> <p>各児童館の目標について、興味深いフレーズが示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家でも学校でもない自由に行ける第 3 の居場所づくり（未来館）</li> <li>・多様なつながりを（小牧南）</li> <li>・児童館を拠点に地域とのつながり（小牧）</li> <li>・みんなの為にという意識（西部）</li> <li>・多世代にわたり安心して過ごせる場（味岡）</li> <li>・日々の小さな積み重ねを大切に（篠岡）</li> <li>・地域みんなの思いをシェアリング（大城）</li> <li>・変わり続けることを恐れない（北里）</li> </ul> <p>など、それぞれに特色があり、これらを一つにまとめれば、まさに“理想の児童館”になるのではないかと感じたところである。</p> <p>各館それぞれに課題はあると思うが、今後もぜひ努力を重ねていただきたい。</p> <p>&lt;議決&gt; →異議なく、本議題は承認された。</p>
<p>担 当</p>	<p><u>（2）令和 8 年度児童館サークル活動・行事計画（案）について（資料 5）</u></p> <p>第 1 回目の児童館運営委員会で話が挙げた父母クラブについて、より児童館の特色を活かし、柔軟な活動ができる地域組織活動となるよう令和 8 年度からは「父母サークル活動」としての実施を予定。</p> <p>「2.父母サークル活動の内容」に記載のあるとおり、基本的な枠組みを設けるものの、実際には各児童館の地域性や実状に応じて活動内容を変更できるものとする。</p> <p>各館の運用予定については、「3.各児童館の令和 8 年度運用予定」に記載の</p>

	<p>あるとおり。</p> <p>次に、各館の主な活動実施計画案（資料 5-1）と年間行事計画案（資料 5-2）。いずれも、こども達が児童館に集い、遊びを通じて学び、充実した活動ができるようにしていく予定。</p>
長谷川委員	<p>&lt;質疑等&gt;。</p> <p>保護者アンケートの中にもあったが、児童館のイベントなどをサイトで見れたらよいとの意見があったが、活動内容などはみれるようになるのか。</p>
村田所長	<p>夏ごろに、児童館一覧や館だより、それぞれの児童館が運用する個別のホームページまで遷移しやすくなるよう市ホームページをリニューアルした。</p> <p>また、現在はどの児童館も SNS を活用して、館内での様子やイベント情報の発信に力を入れており、今後も見やすい情報発信を継続していきたい。</p>
委員長	<p>大城児童館の活動予定の内容について、篠岡児童館との共同開催や調整中とあるが、現在の進捗状況はどうか。</p>
大城児童館長	<p>資料作成時点では篠岡児童館と共同開催を検討していたが、自館にて隔週開催を予定している。</p>
委員長	<p>その他、質疑等よろしいか。</p> <p>→なし</p> <p>&lt;議決&gt;</p> <p>→異議なく、本議題は承認された。</p>
子包括副所長	<p><u>(3) 令和 8 年度 児童館の子育て支援 (案) について (資料 6)</u></p> <p>児童館および子育て世代包括支援センターでは、さまざまなサークル活動や講座を実施している。これらは、親同士が支え合い、親子で触れ合う場を提供することで、こどもが健やかに育つとともに、親が親として成長できるよう支援することを目的として開催している。先ほどの報告にもあるとおり、今後も利用する親子の様子を踏まえながら、講座の在り方について検討を進めていきたい。</p>
尾崎委員	<p>&lt;質疑・意見等&gt;</p> <p>自分のこどもが生まれた時に、0 歳児の時から近隣の児童館を利用し、児童館の赤ちゃん講座で出会ったお母さん達と一部ではあるが今も付き合いがある。</p> <p>児童館のこういった行事が無ければママ友たちと出会うことはなく、当時し</p>

	<p>ていた育児相談が、今では進路相談の話になっている。 ぜひ、今後もこういった事業を継続していただきたい。</p>
小島委員	<p>少し先の話になるが、学校の統廃合の計画が出ているかと思う。特に桃花台地区について、こども達の心境含め、様々な変化があるかと思うが、今後も多くのこども達を助けられるよう運営していただきたい。</p>
丹羽委員	<p>資料 6 の親子サークル活動について、「自由参加／登録制」とあるが、どのような違いがあるのか。</p>
担 当	<p>活動内容についてはこれまでの「クラブ制」ではなく、それぞれの児童館が実施しやすい方法で実施していただくため、この表記とした。</p>
委 員 長	<p>そのほか質疑等よろしいか。 →なし。</p>
	<p>&lt;議決&gt; →異議なく、本議題は承認された。</p>
村田所長	<p><u>次第 4 その他</u> 事務局より 2 点報告。 ・ 1 点目：こまきこども未来館の今後の運営方針について 次第 2 で報告したとおり、こまきこども未来館は、委託契約期間が終了する令和 8 年度末をもって全館を指定管理へ移行する方向で検討を進めている。また、任意指定が可能かどうかについても併せて検討している。 さらに、今月 22 日に小牧市長選挙が予定されており、新たな市長が選出される見込みであり、事務局としては、これまで当委員会およびこまきこども未来館講座運営会議でいただいた意見を尊重しつつ、こまき市民文化財団のような別組織による運営の可能性についても検討したいと考えているが、今後は新市長のもとで判断を仰ぐこととなる。 指定管理、任意指定、別組織の設立等は未来館運営に関わる大きな方針となるため、こども子育て会議においても承認を得る必要があると考えている。 なお、来年度はこども計画の中間見直しの時期にあたることから、未来館の運営方針については、必要に応じてこども子育て会議の議題とし、中間見直しに盛り込む予定である。  ・ 2 点目：味岡児童館および北里児童館の指定管理者について。 今年度で指定管理期間の満期を迎える 2 館であるが、次期指定管理者につ</p>

	<p>いては、指定管理者選定委員会を経て、どちらも引き続き、現指定管理者である「一般社団法人 なないろにこり（味岡）」と「株式会社 小学館集英社プロダクション（北里）」が指定を受けることが決定している。</p> <p>&lt;質疑・意見等&gt; →なし</p>
委員 長	<p>議事終了に伴い、司会進行を事務局へ戻す。</p>
事 務 局	<p>速やかな議事の進行にご協力いただき感謝申し上げます。 全体を通してご質問等ないか。 →なし</p>
事 務 局	<p>これを以て、令和7年度第2回児童館運営委員会を閉会とする。</p>